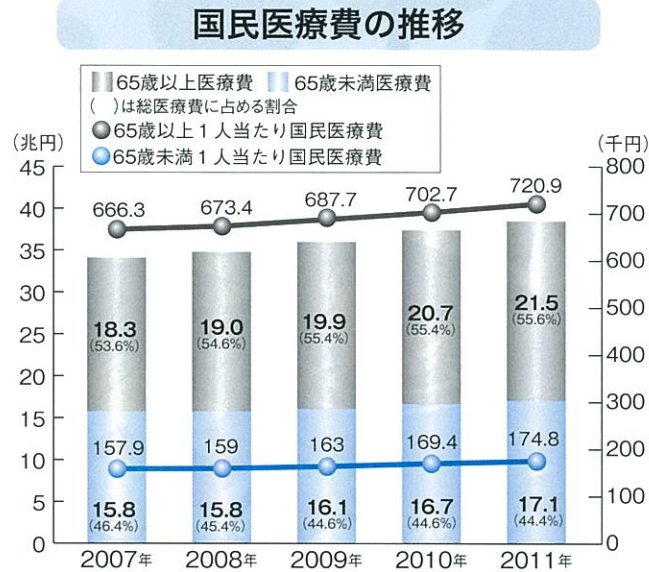


健保の役割はさらに大きく！ 今まで以上に積極的な健康サポートを！

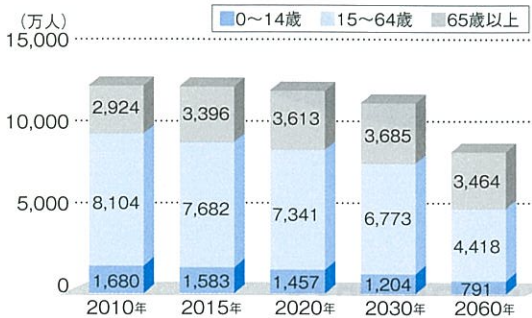
増加の一途、国民医療費。主な増加要因は高齢者の医療費

2011年の国民医療費は、38.6兆円。その額は、前年度から3.1%増加となっています。医療費が増加している主な要因は「高齢化」。65歳以上の人は年72.1万円で、65歳未満の人の17.5万円と比べ4.1倍の医療費を使っています。2015年度には団塊の世代すべてが前期高齢者になることから、ますます増加することが予測されます。

高齢者の医療費の増加は他人事ではありません。後期高齢者医療費の自己負担額を除いた医療給付費の4割は、現役世代からの支援金で賄っています。そのため、我々健保組合が負担する高齢者医療費は、金額・割合とも年々増え続け、健保組合の財政を大きく圧迫しています。



日本の年齢区別将来人口推計 (2013年版高齢者白書より)



世界一の長寿国日本。今後、日本の人口構造は、高齢化がより一層進み子供や現役世代と高齢者人口が逆転したつぼ型になるといわれています。2060年には、子供の人口割合9.1%、現役世代51.0%、高齢者(65歳以上)39.9%になり、10人中4人が高齢者になると予測されています。さらに、現役世代1.3人で1人の高齢者を支えなければならなくなります。

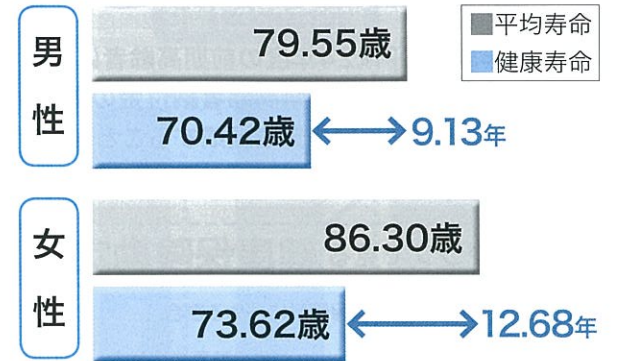


めざすは元気なお年寄り！ 健康寿命を延ばそう

「健康寿命」とは、健康を維持し自立した生活ができる期間です。ただ長生きする「平均寿命」ではなく、健康を維持しながら長生きする「健康寿命」の延伸が大切になります。

日本の平均寿命と健康寿命の差は男性が約9年、女性が約13年です。つまり、病気で寝たきり状態や要介護など自立できない期間は平均して10年前後に及ぶということです。

国民の健康づくりの指針となる『健康日本21(第2次)』においても、「健康寿命の延伸」が新たな目標として盛り込まれています。平均寿命と健康寿命の差が縮まれば、健康で元気なお年寄りが増え、その結果、年々膨らむ高齢者医療費などが抑えられる効果も期待されています。



(資料：平均寿命は厚生労働省「平成22年完全生命表」、健康寿命は厚生労働科学研究費補助金「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」より)



健保の役割が変わる。より積極的な「健康づくり」の取り組みへ！

健康寿命の延伸の具体的な取り組みとして、「データヘルス計画」が今年度からスタートし、来年度より実施されます。

「データヘルス計画」とは、これまで蓄積されたレセプトや健診情報等を活用して、より効果的な健康づくりや疾病予防活動を行うことです。この「データヘルス計画」の中心的役割を担うのが健保組合です。

健保組合は、今まで以上に保健事業の質の向上に努め、みなさんの健康度がアップするよう効果的な保健事業に積極的に取り組んでまいります。

みなさんのちょっとした心がけが健康を生み出し、健康寿命の延伸につながっていきます。まずは、毎年実施する健診を受診しましょう。健診結果は効果的な保健事業実施の基盤となるデータです。ご協力よろしくお願いいたします。

